

近世歌人短冊帖一帖

伊勢人短冊帖一帖





132X
174



木

ふかき木はちたてふ
はるかにふかき木はちたてふ

ふかき木はちたてふ
はるかにふかき木はちたてふ

花有
喜色

何くともあなちの事知て
花とみるも我もさうし季

隣
槿
花

いふはつのもうさまた
花の中頃東丸

332

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

何

小のそりともくし
 かしぬきしはひる

寄鶴祝

友にるのつそら乃もぬあよも
わみれゆんそそれよのふ馬村

寄弓祝

日ゆさ乃大流もゆんあやの
よゆさよあゆふ所あ感筆

月 前

管 絃

機

丁のり新うう新く東竹を

祢ね新うう新く東竹を

重にまうむをまう山乃う

うねのふうむをまう山乃う

51

あきふなれといふ
しまふまゝ人のあはれ
はあはれ

寄園観

あきふなれといふ
しまふまゝ人のあはれ
はあはれ

水之園

ひさしをみればあき
くさくさなるうねり

かきつばたのうねり
はなはたしきうねり

九月

秋のふとちうみうかきとを
やりけもいふ地を思ふは
かな地胸

秋水

もあまおるふさ細い美を
あまの理をふさるるける満

雲の勢ゆる舞の如くあはれ
のせまる須麻比く丹春海

雪似花
まをりおほしはるのたそがれ
あはれふもほろけりあはれ
愛親

ふゆのうしろの
くさくさ

神功
後

世のふれはるる心もたに
 くらゐふあはるる心もたに

せろのふれはるる心もふに
 くらふふふふふふふふふ

松

今も春の風
吹くやうに
花は咲く

山

いさよふと
月夜に
春の風

元

百身也やうの山は好時日

いふもろぬ世のまゝるゑ

新
竹

こやーおしの縁をいろをわつれ

あまむをそねとおけるあまの太平

沖雪

沖雪は花も枝も白く
はらけしは花も枝も白く
英雄

池邊雪

池邊雪は花も枝も白く
はらけしは花も枝も白く
英雄

子

石う流のむとせはな
てふ

山
河
花
鳥

水戸の山何處

千回

稲妻

ふかきまはすも、つねの
ほきまはすも、やまといふ人な

いそがし
あつける

益荒雄たふはつゝおれ知るあれや
ふりやめも、歌とて、集胤

鷹狩

さきさきのうもりのきりぎりす
たけが枝のうもりのうもりの集

佐々次信

君がさかハ島へ波ふくきり
かのもくもりの破のうもりの集

海を

ちか

神風のいそひの浪をたぎら

せぬやうなそわなうさなうさ

曲水宴

海へのそらへてやあらで

くむうはまの流たもる年有ゆ

芳野

懐古

みる 野はあけけりて

あけけりてのさきけりてあけけり

河邊

そ

地

山陰の川へそきき山陰の
あけけりてあけけりてあけけり

三崎のちり
ゆきふり
目さるる
雅澄

田家

時雨

土まの
依平

胡荻

胡荻花白如雪
清香可人
一枝独在野
寂寞空山

李振

李里城出
一枝独在野
寂寞空山
一枝独在野
寂寞空山

秋野

きよのわく秋の野や
こころの光あ

霞中馬

梅の枝か
はるかな
うき世の
まじり

山崎宗

ふみふみいづちのうきうき
うきうきいづちのうきうき

山崎宗

ふみふみいづちのうきうき
うきうきいづちのうきうき

子内子

し月 ぬきもはるかにあそぶ
まふ みるはるかにあそぶ

丁卯年
 二月
 廿五日
 隆慶

陸

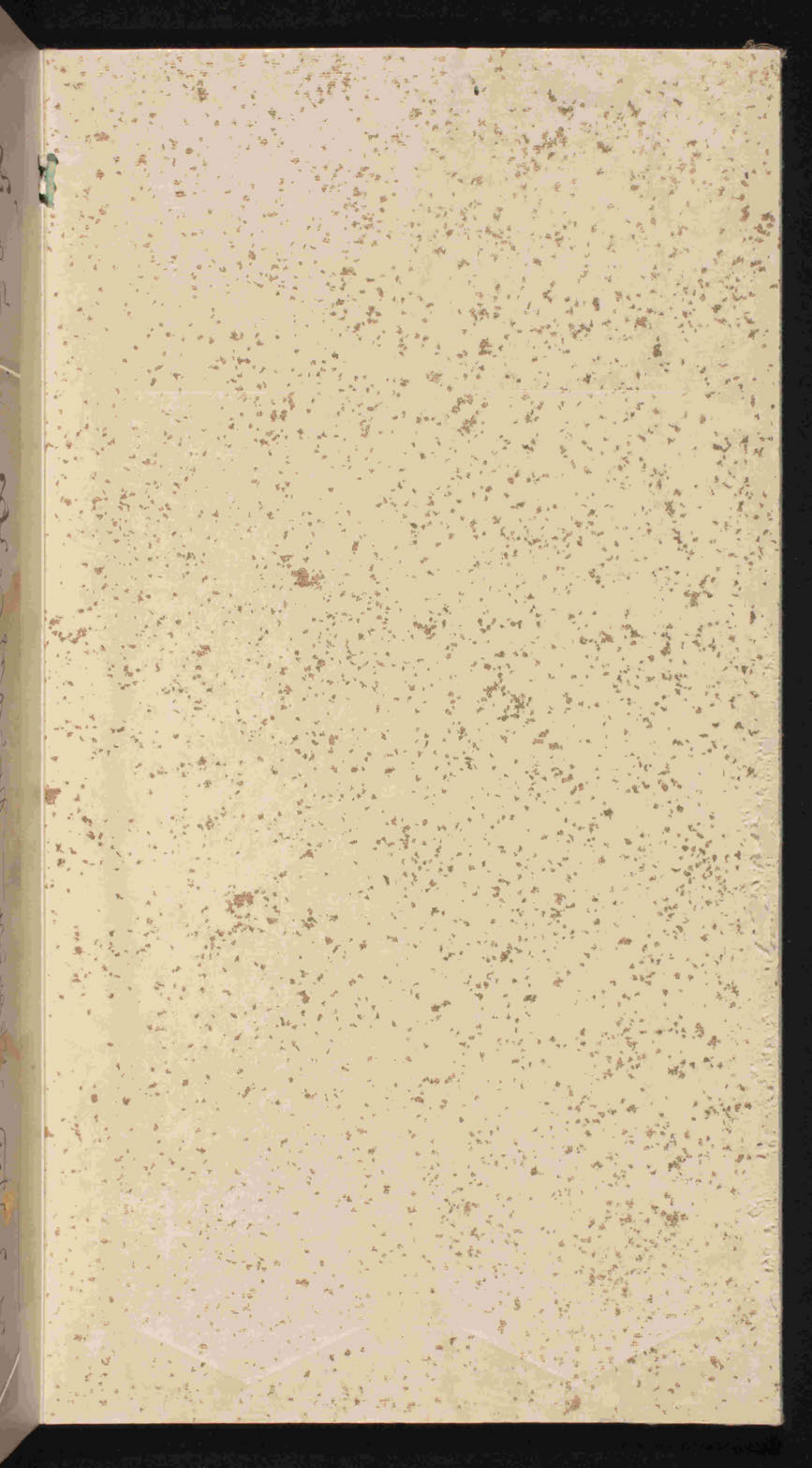
た

いふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ

村を
た





山

秋

河あはきあきあき
あきあきあきあき
あきあきあきあき
あきあきあきあき

春
曙

あきあきあきあき
あきあきあきあき
あきあきあきあき
あきあきあきあき

神
速

しつとてふ心きふ
つとてふ心きふ

み
み
み
み

しつとてふ心きふ
つとてふ心きふ

み

氷室風

おはきうの川にさるるまじき
まはきうの川にさるるまじき

河色
郭
云

五月のころのさるるまじき
すゑのころのさるるまじき

長栄のまはるかにわきて
くもやう葉のむのちのけき具視

素
の
中
の
中

ちやくし物おもひをねえを柳
那ひきうへてきききききき
年平

戒波
羅老

我信子いんまは梓子
そりうまひんれぬしるあ

信そるまうそんこさ
いんあまうなまに京ま

是時

月ひきまのそよ風の吹く
あそびの風をほめて
認め

待たる

このはらのそよ風の吹く
あそびの風をほめて
認め

水門
接ふ

あつめあふきあふのきき
月あふりむあふり慶永

あつめあふきあふのきき
あふりむあふり慶永

杜子規

あひのひきよきとて
ふもたふしむ本林
あふさうに容保
時鳥

あひのひきよきとて
ふもたふしむ本林
あふさうに容保

あひのひきよきとて
ふもたふしむ本林
あふさうに容保

李山齋

何ぞもあつてゐる
 ことか
 何ぞもあつてゐる
 ことか

庭落花

ゆゑのちのこゝろをいふは
はるかにたゞちちるるをいふ

酒
上
靈
酒

あふれ海よりわつらふは
まことのわつらふは

堅固なる心直之

すまの海よたねをいそがし
くらねえのすねの風をいそ

之秋乃為風常觀

夫程

歩むる程の下よりあそび
ひよりき止ぬるらん義

小ちる家ほん月をねりてあそ
むる程の山よりあそび

酒

よのぼろちやうどいふやうな天の
味

酒
上月

酒
あまのちやうどいふやうな
味

落葉

(Faint handwritten cursive script)

海
島
松

いふまゝに
たゞしきことなり

すなはち
玉をみるに
あらず

豊物

雨中

落

花

ふらふらめいた
さくらさくら
さくらさくら
さくらさくら
有聲

天のはら富士と葛の垣に
たてらく心ときりくたあふな

落葉

有聲

月の光よささしくも
まじりて木葉の理り

木村千成

玉葉のいろと
ちよとまじりて清

田家月

いづちの月

いづちの月 信行

魚

いづちの月

いづちの月

河春

おちりぬ月さこのき
杜川
ふりさけふ春あはれに
義家

子

ふやせ下りわはめる
むうううおーかつこいのちを

ふやせ下りわはめる
むうううおーかつこいのちを

禁中禁

ふりうみそあふにふり
たのけあはるほるなるん

春雨晴

あやうにあふかりうて
ちりそふりうあふふり

海邊露

半ふるさつちのさ
つふらうさるが守

霧

ふらふらうさるが
あふらうさるが

義清

秋時雨

一々来ぬ秋ふかきまはれ
少女乃むきやよきもくも通泰

たけふのうきふきふきふきふき
ふきふきふきふきふきふき
ふきふきふきふきふきふき

洞
白

新くくはちやうくさ
あやうくの
あやうくはちやうく
英一

うきうきうき
あやうく
あやうく
禁

曉

癰

雲々々々々々々々々々
山井乃々々々

月夜の風を待つ
しるしを待つ

あはれを待つ
あはれを待つ

雨よりし清き水に
ササキの心くさるる
くさるる様のみ
な

さくらんぼの
つねの戸口もふたふた
な